

男女共同参画

東京都市大の取組み

男女共同参画社会基本法が平成十一年に施行されて以来、大学でも様々な取組みが行われてきた。私立工学系大学として初めて文科省の女性研究者研究活動支援事業の対象となった東京都市大学の岡田往子准教授に寄稿いただいた。

東京都市大学は武蔵工業大学が研究と出産・育児休業としての八〇年間、等の両立やその能力を十分に発揮しつづつ研究活動を活かし、平成二十一年に行える仕組み等を構築し、文系学部設置を契機にするモデルとなる優れた総合大学として新しい一歩を踏み出しました。それと同時に文部科学省「科学技術振興調整費」から仕事を継続した女性研究者支援システム改訂版「女性研究者支援モデル育成」(現、科学技術人育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」)に採択され、今年三月で三年間の事業を終了しました。この事業は大学や公的研究機関を対象として、研究環境の整備や意識改革など、女性研

ンにおける男女共同参画モデル」でチャレンジしました。本学では将来女性教員が増えたときのための環境を整えることが大きな目標と

あり、この大学も男性社会でしたが、近年女子学生の入学は徐々に増えてきています。本学でも女子卒業生は二〇〇〇年までの五〇年間で約二二〇〇名であったのに対し、それからの一〇年間は一九二〇名と飛躍的に増えています。さらに、車をはじめとした工業製品の女性の使用頻度が高くなったことや新たなものを生み出す力として多様な意見や発想が重要になってきていることなどから、理工系分野の女性進出が求められています。本学は工学部の男性社会は当たり前という意識に対しての「女性研究者支援システム改革」女性研究者支援モデル育成」に課題名「工学イノベーション

の学部というイメージがあり、どこの大学も男性社会でしたが、近年女子学生の入学は徐々に増えてきています。本学でも女子卒業生は二〇〇〇年までの五〇年間で約二二〇〇名であったのに対し、それからの一〇年間は一九二〇名と飛躍的に増えています。さらに、車をはじめとした工業製品の女性の使用頻度が高くなったことや新たなものを生み出す力として多様な意見や発想が重要になってきていることなどから、理工系分野の女性進出が求められています。本学は工学部の男性社会は当たり前という意識に対しての「女性研究者支援システム改革」女性研究者支援モデル育成」に課題名「工学イノベーション

ともに学ぶ場、 ともに働く場を目指して

東京都市大学 男女共同参画室 室長 岡田往子



環境整備とそれを構築するための体制づくりを目的とした様々な取組みを行っています。研究と出産・育児等を両立できる環境の整備の検討、学内意識改革を目的としたシンポジウム、女性研究者紹介セミナー、学内ニーズの掘り起こしのアンケート調査、情報提供を目的としたニュースレターの発行や女性研究者や女子学生対象の相談室の設置などを実施しています。「プラス1PJ」は、本学独自の教育講師制度を活用して、女性教員のいない学科に一名の女性教員採用を促進する取り組みです。女性教育講師は、学科の専門科目の講義をし、研究は基本的にしないという条件で任期付ですが、女性がもともと働きたい学科に女性と共

工学系イノベーションを進める男女共同参画5つのプロジェクト



雇用も増え、結果として理工系学部女性比率が八・六%でしたが、一・〇%にアップしました。とは言っても、理工系分野に女性は少ないの環境の整備を目的としたシンポジウム、女性研究者紹介セミナー、学内ニーズの掘り起こしのアンケート調査、情報提供を目的としたニュースレターの発行や女性研究者や女子学生対象の相談室の設置などを実施しています。「プラス1PJ」は、本学独自の教育講師制度を活用して、女性教員のいない学科に一名の女性教員採用を促進する取り組みです。女性教育講師は、学科の専門科目の講義をし、研究は基本的にしないという条件で任期付ですが、女性がもともと働きたい学科に女性と共